

平成30年度「かながわ教育月間フォーラム」の実施結果の概要

1 開催の趣旨

- 「かながわ教育ビジョン」の理念の実現に向け、人生 100 歳時代やグローバル化の進展などの新しい時代において生徒の夢をかなえる教育について、たくましく生きる力の育成や、課題解決に向けた具体的な方法について考えるワークショップを、教育月間にあわせて開催する。
- 教育月間フォーラムの成果（検討結果）は、教育ビジョン推進のための県民との教育論議の場として設けている「かながわ人づくりコラボ」につなげ、実効性のある教育論議に資する。
- 平成 30 年度は、「夢をかなえる力を育む ～弥栄高校の教育実践を例として～」をテーマとし、県立弥栄高等学校を会場校（※）として開催する。

※ 会場校となる弥栄高等学校は、普通科と複数の専門学科を併置する全日制高校であり、その特色を生かし地域との連携に積極的に取り組んでいる。

2 開催の状況

- (1) 日 時 平成 30 年 10 月 20 日(土) 13:00～15:00
- (2) 場 所 神奈川県立弥栄高等学校（相模原市中央区弥栄 3-1-8）
- (3) 主 催 神奈川県教育委員会
- (4) 参加者 74 名

3 開催の内容

(1) ミニ講義「弥栄高校における多様なまなびの実践について」

（神奈川県立弥栄高等学校 校長 伊原 伸一郎）

- ワークショップでの話し合いを深めるため、弥栄高等学校の各学科の特徴や地域連携の概要について、ミニ講義を行った。
 - ・ 本校の生徒の進学先として、音楽系、美術系大学（東京藝術大学など）への進学者数が多い。
 - ・ 各学科の具体的な活動状況
 - ◆普通科では英語合宿や韓国姉妹校交流を実施
 - ◆音楽科では大学の先生による個別指導やオーストリア・ハンガリーへの研修旅行を実施
 - ◆美術科ではイタリアへの研修旅行や外部での美術展の開催
 - ◆スポーツ科学科ではスキューバダイビング免許の取得やスポーツ実技発表会の開催
 - ・ 地域連携では、近隣の弥栄小学校・弥栄中学校や相模原中央支援学校への訪問、音楽科・美術科生徒による発表会、美術科生徒による小学生向けの絵画教室、吹奏楽部・軽音楽部・合唱部による地域のイベントでの発表、宇宙航空研究開発機構（JAXA）への訪問など、地域での発表と地域から指導を受けることにより、生徒の学びを発展させることに取り組んでいる。



(2) ワークショップ

- 次のテーマについて、弥栄高等学校の生徒、教員、保護者、近隣住民の方などにより、6グループに分かれて話し合い、その結果をまとめ、発表した。

【テーマ】

- ① 弥栄高校の地域連携の取組について、
ア 「いいと思ったこと」(現状の長所)
イ 「もう少しこうなるといいと思うこと」(課題)
ウ 「今後新たに取組んでみたいと思うこと」(新たな取組み)
- ② テーマ①での話し合いを踏まえ、
エ 「どうしたら解決・実現できるのか」(解決策)
オ 「どのような支援・連携ができるのか」(新たな支援・連携策)

【テーマ①】 弥栄高校の地域連携の取組みについて

- ア 「いいと思ったこと」(現状の長所)

(主な意見)

- ・各学科で学んだことを実際の行動に移せる
- ・小・中学校が近くにあり、交流しやすい
- ・文化祭の完成度が高い
- ・姉妹校交流がさかん
- ・学校から地域への発信の場がたくさんある



- イ 「もう少しこうなるといいと思うこと」(課題)

(主な意見)

- ・地域の方を学校に招く機会を増やす
- ・校内(各学科)の交流をさかんにする
- ・保護者と教員の交流の機会を増やす
- ・大学との連携を行う
- ・自治会との連携を行う
- ・外部発信の機会を増やす

- ウ 「今後新たに取組んでみたいと思うこと」(新たな取組)

(主な意見)

- ・各学科の取組を学校全体で共有する
- ・地域の防災訓練に参加する
- ・地域への発信の際に地域の力を利用する
- ・相模原市内の小・中学校でアトラライブの公演を行う

【テーマ②】 テーマ①での話し合いを踏まえ、

- エ 「どうしたら解決・実現できるのか」(解決策)

(主な意見)

- ・高校生が地域作りのアイデアを提案する仕組みを作る
- ・地域コーディネーターを活用する
- ・学校のPRを積極的に行う

オ 「どのような支援・連携ができるのか」(新たな支援・連携策)

(主な意見)

- ・相模原中央支援学校で巨大壁画を一緒に描く
- ・部活動による学童保育への参加
- ・地域の方に発表の場を提供する

(3) 発表

- テーマである「夢をかなえる力を育む」について、各グループで話し合った内容を会場で共有するため、各グループの代表者が意見を発表した。

(生徒の視点から)

- ・校内で、学科ごとの発表を行うなど、学科を超えた交流を行う
- ・老人ホームや特別支援学校、学童保育との交流を新たに行う
- ・音楽の発表会を小・中学校でも行う
- ・弥栄高等学校が地域で憧れられる学校として、「夢をかなえる力を育む学校」ことができる学校として、積極的に地域へ情報等を発信したい

(地域の視点から)

- ・地域の方が学校で授業を行う
- ・地域行事の情報をもとに、生徒が地域の行事に参加する
- ・高校生が地域に向けてアイデアなどを提案する場を設け、継続できるとよい
- ・外国につながる生徒との交流により、内なる国際化を進める



(4) 講評

- 発表をうけて、弥栄高等学校の伊原校長、教育委員会の折笠教育監より講評があった。

(伊原校長)

- ・発信力の弱さや学科間交流の薄さなどについて指摘をいただいたが、これらの課題を新校作りに向け克服していく。

(折笠教育監)

- ・神奈川の高校生の潜在能力は高い。ワークショップでは、様々な世代が集まっている中、どのグループも活発な意見交換ができていた。
- ・生徒は、課題を見つけ解決していく力を養って、グローバルな人材に育ててほしい。
- ・今後コミュニティ・スクールにより学校と地域のつながりを強くしていく。地域の方々との連携を強めて、神奈川の教育力を高めていきたい。

(5) 閉会のことば

- 県教育委員会の高橋委員より全体の感想をいただいた。

- ・地域の人や生徒のニーズを大切にする「学ぶ学校」が重要である。また「学ぶ」とは知識のストックではなく、その場で求められることに臨機応変に対応できる知恵となることが大事である。
- ・専門性を伸ばした上で、そこで得た知識を外部に発信することで、自分の学びの意味を実感できる。
- ・様々な年代や様々な立場の人が知恵を持ち寄ることが大事である。

